

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第6部門第1区分  
 【発行日】令和1年12月5日(2019.12.5)

【公開番号】特開2018-80976(P2018-80976A)  
 【公開日】平成30年5月24日(2018.5.24)  
 【年通号数】公開・登録公報2018-019  
 【出願番号】特願2016-222657(P2016-222657)  
 【国際特許分類】

G 0 1 N 33/53 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 33/53 N

【手続補正書】  
 【提出日】令和1年10月25日(2019.10.25)  
 【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0036  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0036】

当該体液抗体レベルの測定は、例えば、上述した体液抗体捕捉抗原（蛋白質、及びペプチドを含む）の固定化物に体液検体を接触させ、当該体液検体内のSH3BP5蛋白質に対する抗体（体液抗体）の当該体液抗体捕捉抗原との抗原抗体反応に基づく結合をシグナルとして検出することにより、行うことができる。具体的には、AlphaLISA法、ELISA法、間接蛍光抗体法、ウェスタンブロット法（免疫ブロット法）、比濁法、比臙法、ラテックス凝集比濁法、CLEIA法等の手段を用いて定量測定を行うことができる。ここに例示したいずれの定量測定手段も、定量標的物質を体液検体中の抗体とした場合の、確立した定量測定手段である。例えば、AlphaLISA法では、GST-融合SH3BP5抗原（蛋白質又はペプチド）を体液抗体捕捉抗原とする場合は、glutathione-結合ドナービーズを用い、biotin化SH3BP5体液抗体捕捉抗原とする場合はstreptavidin-結合ドナービーズを用い、体液抗体捕捉抗原、体液検体、及び抗ヒトIgG抗体を結合させたアクセプタービーズを混合し、数時間から数日、室温でインキュベートし、形成された抗原抗体複合体に680nmの光を照射し、発生した520-620nmの光を検出することにより、所望の体液抗体の定量を行うことができる。間接蛍光抗体法では、所定の体液抗体捕捉抗原を固定化したプロテインアレイに体液検体を接触させて、形成された体液抗体捕捉抗原-抗SH3BP5体液抗体複合体に対して、さらに蛍光標識を施した二次抗体を接触させて、SH3BP5に対する体液抗体を定量することができる。ELISA法は、間接蛍光抗体法で用いる二次抗体の標識を酵素標識として定量を行うものである。二次抗体の標識は多様に選択可能である。ウェスタンブロット法では、体液抗体捕捉抗原をSDS-ポリアクリルアミドゲルで電気泳動した後に、ゲルからニトロセルロース膜等の担体に転写させ、体液検体を接触させて、生じた体液抗体捕捉抗原-抗SH3BP5体液抗体複合体を、二次抗体を用いて検出することにより定量測定を行うことができる。比濁法や比臙法では、体液検体と体液抗体捕捉抗原を接触させることにより形成された体液抗体捕捉抗原-抗SH3BP5体液抗体複合体を、濁度（比濁法）や、散乱光強度の変化（比臙法）で検出することにより定量を行うことができる。ラテックス凝集比濁法では、体液抗体捕捉抗原を結合させたラテックス粒子と体液検体とを接触させることにより、当該ラテックス粒子の凝集体をラテックス粒子に結合した体液抗体同士の相互作用により形成させて、これを検出することにより定量を行うことができる。CLEIA法では、体液抗体捕捉抗原の結合磁性粒子と体液検体を接触

させて、磁性粒子上に体液抗体捕捉抗原 - 抗 S H 3 B P 5 抗体複合体を形成させて集磁を行い、未反応物を除去して、適切な蛍光処理等を施して当該複合体を検出することにより定量測定を行うことができる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 5】

配列番号 2 の全部又は一部のアミノ酸配列は、10%以下の個数（小数点以下切り捨て）のアミノ酸残基が、欠失、置換、又は、追加されていることを特徴とする、請求項 2 - 4 のいずれか 1 項に記載のデータ取得方法。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 6】

体液検体は、血液検体であることを特徴とする、請求項 1 - 5 のいずれか 1 項に記載のデータ取得方法。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 7】

血液検体は、血清又は血漿であることを特徴とする、請求項 6 に記載のデータ取得方法

。

专利名称(译)	<无法获取翻译>		
公开(公告)号	<a href="#">JP2018080976A5</a>	公开(公告)日	2019-12-05
申请号	JP2016222657	申请日	2016-11-15
[标]申请(专利权)人(译)	藤仓化成株式会社		
申请(专利权)人(译)	藤仓化成株式会社 国立大学法人千叶大学		
当前申请(专利权)人(译)	藤仓化成株式会社 国立大学法人千叶大学		
[标]发明人	黒田英行 中村利華 富吉郷 日和佐隆樹		
发明人	黒田 英行 中村 利華 富吉 郷 日和佐 隆樹		
IPC分类号	G01N33/53		
FI分类号	G01N33/53.N		
代理人(译)	志村光晴		
其他公开文献	JP2018080976A		

#### 摘要(译)

要解决的问题：寻找能够直接掌握动脉硬化进展的标志物，提供预防或治疗动脉硬化本身的动机，以及掌握动脉硬化相关疾病的病理学手段，包括准确的动脉硬化待用。 解决方案：已经发现，通过测量体液样本中针对SH3BP5蛋白或其部分的抗体水平，可以获得关于动脉硬化进展的直接数据。 【选择图】无